

果たして「汚染水はコントロール」されているのか？

9月13日の毎日新聞の記事によれば、安倍首相が国際オリンピック委員会（IOC）総会で、福島第一原発の汚染水問題について「状況はコントロールされている」などと発言したことを受け、民主党が政府・与党との対決姿勢を鮮明にしたとの記事が掲載されている。

五輪招致決定の影で

2020年に東京オリンピックの開催が決定したこと自体は喜ばしいことである。久しぶりの明るいニュースなのは間違いない。しかし、安倍首相が五輪招致プレゼンテーションで福島第一原発の汚染水問題を巡り、「完全にブロックされている」「コントロール化にある」と発言したことについては、果たして本当なの？ と首をかじげざるを得ないのではないだろうか。ついこの間までは、そんな雰囲気などどこにも無かったではないのか？ 五輪招致決定の喜びの一色に染め上げられている中で、「実態を正しく伝えていない」と疑問視する声は出ているのである。

東電幹部「コントロール出来ていない」

事実、9日に開催された東京電力の記者会見で、報道陣から首相発言を裏付けるデータを求める声が相次いだ。担当者は「一日も早く（状況を）安定させたい」と応じた上で、政府に真意を照会したことを明らかにするなど、認識の違いを見せたそうである。

小出助教「嘘である」

「汚染水による影響は福島第一原発の港湾内0.3平方キロメートルの範囲内で完全にブロックされている」とした安倍首相の発言を小出裕章・京都大学原子炉実験所助教は「嘘である」と断言した。（ラジオフォーラム）

ラジオフォーラム：「汚染水による影響は福島第一原発の港湾内で完全にブロックされている」という安倍首相の発言は、科学的見地から見て正しいものなのでしょうか。

小出：そんなことあり得るはずがない。海というのはみんな繋がっています。汚染は福島第一原子力発電所の敷地から流れ出て、結局は全ての海に流れていってしまうのです。その時に薄まっていくというだけであって、どこかで完全にブロックされるなんてあり得ません。

世界に向かっての約束

安倍首相の発言と、2020年の東京オリンピック開催の決定が無関係であるはずがありません。果たして汚染水はコントロール出来ているのか、それともこれからコントロールする努力をするというのか、いずれにせよ、これは日本が世界に向かって約束したことなのです。好むと好まざるとに関わらず、私たち日本人一人ひとりに突きつけられた課題なのではないのでしょうか。決して見過ごしたり、無関心であってはならないのではないのでしょうか。